教授　農食環境学群長　**小糸健太郎**　こいと　けんたろう

取得学位	博士（農学）
研究室･ユニット名	国際経済学
研究キーワード	①酪農の生産性
	②技術選択
	③自給飼料

自給飼料の利用と酪農業の生産性に関する分析

研究の概要・特徴

土地利用型の酪農において、自給飼料生産とその利用において、労働力の制約や自給飼料の品質の不安定性、費用面などに課題があります。そのため、自給飼料生産とその利用拡大には、こうした諸問題を解決するための技術の導入と利用方法など、酪農家の工夫が重要な要素となると考えられます。

その一例として、細断型ロールベーラの利用方法について事例から考察しました。考察から，酪農家の工夫により細断型ロールベーラの利用は，経営の効率化に様々な面で寄与できる可能性があると考えられました。事例では、１）バンカーサイロの施設投資の代替性があること、２）粗飼料の品質低下リスクを減少させること、３）粗飼料の流通が可能となることから自給飼料の利用可能性を高めることが示唆できた。また、コスト面からも作業適期の制約が小さいことから共同利用の利点があり、費用を大きく増加させずに導入が可能であることが示唆できた。

産業界等へのアピールポイント（用途・応用例等）

事例で取り上げた細断型ロールベーラは、サイレージの貯蔵と移動の可能性を高める技術として捉えることができ、その特徴から、自給粗飼料の利用拡大と流通拡大の可能性があると考えられます。このような技術が、酪農家でどのように活用され、どのような課題があり、どのような面で有効なのか、生産効率にどのように影響するのかを明らかにすることは、農家の技術選択において、重要な示唆を与えるものであると考えます。

研究シーズ一覧